

相原小学校6年「日本の伝統文化 茶道」

相原小学校では2月27日（火）に6年生が我が国の伝統的な文化を学ぶ授業を受けました。茶の湯を嗜む方々が、流派を超えて集う「町田茶道会」による「日本の伝統文化 茶道」の学習は、相原小学校では卒業を控えた6年生の恒例の授業となっています。

すべての6年生児童が礼の仕方、給仕の仕方、お茶の点て方、お菓子の食べ方、お茶の飲み方を実際に体験しながら学ぶだけでなく、茶の湯・茶道の歴史、日本文化についても学びます。つまり、形から入り、心を学び、「和敬清寂」に到る道に触れられる学習が、地域の団体の支援で進められます。

この授業は学校の教育活動にしっかり位置づけられ、関連付けられて進められている学習です。児童は事前に自分が図画工作で制作した焼き物の茶碗にお茶を点てます。お水は学校で掘った井戸から汲み上げたものが用いられるなど、他にはあまり見受けられない特色ある教育活動です。



「お辞儀には3種類ある」と初めて学び、神妙な面持ちで練習に臨む児童、自分が制作した自分の茶碗で、自分が点てたお茶を楽しそうに飲む児童、正座から立ち上がることができずに転んでしまう児童など、様々な表情が見られました。また、ここで作法・礼法を学ぶ機会が得られるためか、卒業式での6年生の姿勢・立ち居振る舞いが見違えるほどに立派なものになると、地域からも評価されています。

VCは日程などの調整、団体との連絡、前日から始まる準備活動の手配、当日の講師対応、実施に当たっての調整・手配、事後の片付け・処理など、実施に必要なすべてにかかわっています。

小山小学校「オリンピック・パラリンピックを学ぶ 陸上競技」

5月14日（月）に小山小学校では、アトランタ・シドニー両オリンピック陸上競技日本代表選手の対部俊二法政大学教授を招き、オリンピック・パラリンピックを学ぶ授業が行われました。全校児童を低学年・高学年と2回にわけて、それぞれに分かりやすく工夫された語り口で授業は進められました。

競技の実際を、全日本選手権で優勝した400mハードル、アトランタオリンピックで4位入賞の1600mリレーのビデオで苅部選手の力走を観ることから授業は始まりました。児童は古代オリンピックから近代オリンピックまでの歴史を学び、さらにオリンピック精神について学びます。児童たちの多くは、フェアプレー精神のもとに「より速く、より強く、より高く」を目指すオリンピックが、平和な世界の実現に寄与するものであることを理解できたように思われました。また、「オリンピックは参加することに意義がある。人生にとって大切なことは成功することではなく努力すること」と語りかけられたメッセージも、多くの児童の心に残るものと思われました。



苅部選手は小学生のころからオリンピック出場までの運動や競技へのご自身のかかわりを、児童の意識に寄り添いつつ語る中で、

実体験で得られた多くの言葉を伝えられました。「夢は終わらない」「夢は必ず叶うとは限らない」「がんばればそれなりの結果になる」「がんばることが大切」などは、多くの児童への励みとなるものと思われました。

3名の代表児童に走りのコーチをすることが授業の締めくくりでした。高学年には専門用語も使いながら、走りの動作、スタートの仕方などが説明・指導されました。

昨年5月に「オリンピック・パラリンピック教育でオリンピック日本代表選手経験者の話を」と学校から相談されたVCIは、児童が身体を動かしてオリンピック競技を学ぶという授業のねらいを実現できる講師の手配を、学校支援センターに相談しました。学校支援センターから適任者の情報を得たVCIは大学との連絡、講師との連絡を取りつつ、小学校との調整を進め、実施に向けた支援をしました。



ゆくのき学園「~~おんぴんぴん~~ 車いすバスケットボール」

ゆくのき学園大戸小学校・武蔵岡中学校では6月19日（火）に、オリンピック・パラリンピックを



学ぶ授業として、一般社団法人センターポールの支援によるパラアスリート交流授業がそれぞれに行われました。アメリカの車いすバスケットボール選手権で活躍しているマリオ・モラン選手、三元大輔選手のパラアスリートとしての思いや在り方を受け止め、車いすバスケットボールについて知るとともに、児童・生徒が車いすバスケットボールを体験する授業です。

上映された映画に映し出された車いすバスケットボール競技のあまりの激しさには、多くの児童・生徒が驚きを隠せぬ様子でした。スライドを使って丁寧に説明された車いすバスケットボールのルールについての理解はかなり深められたようですし、選手たちが取り組

むあまりにも厳しいトレーニングの様子には障がい者の生き方への理解が深められたようです。「人生には困難がある、そのあとにどう立ち向かうかが大切」と伝えられた言葉は多くの児童・生徒にしっかり届いたように思われます。

英語を使っの質問も含め、児童・生徒からはたくさんの質問がありました。その中でもマリオ・モラン選手の障がいについての質問には驚きの答えが返ってきました。「その人がなぜ車いすの生活になったのかを知ろうとするのは悪いことではない」と語り始めたマリオ・モラン選手の答えは、「悪い仲間に入っていたときにピストルで撃たれたためだ」でした。「人生には困難がある、そのあとにどう立ち向かうかが大切」と伝えられた言葉を幾人かの児童・生徒は改めて胸に留めたようでした。

車いすバスケットボールの競技体験は、講師2名のチームと学年ごとに編成された児童・生徒のチームが対戦する試合形式で行われました。児童は全員、生徒は選抜ですが、各学年チームともスポーツ車いすの操作に慣れるための鬼ごっこのあとに試合が開始されました。特に中学3年生チームの緊迫した試合展開には、会場中が車いすバスケットボールを心から楽しむ空気に包まれてしまいました。

個人的なつながりから一般社団法人センターポールによる車いすバスケットボールを知ったVCが、当校のオリンピック・パラリンピック教育として実施を提案し、学校との調整を経て実施されたものです。当日の連絡、手配などもVCが進めました。



2018年度 町田市学校支援連絡会

6月28日（木）に町田市役所10階会議室において、2018年度町田市学校支援連絡会が開催されま

した。町田市の学校支援センター事業において、学校支援ボランティア活動に係る情報交換を行うために、規定に基づいて設置された学校支援連絡会です。本年度はコーディネーター代表（連絡委員）、地域協力者の代表（連携団体）、学校教育部長ら教育委員会職員の出席により開催されました。

金木指導室長の挨拶、辻統括指導主事による事業説明、学校支援センターによる活動報告、連携団体からの挨拶、そして各連携団体を囲んでのグループごとの情報交換会が進められました。情

報交換会は時間を多めにとり、また2つ以上の団体と交流できる場を設定しての取り組みで、グループによってはかなり深い情報交換がおこなわれる会となりました。

グループごとの「感想・意見 付箋メモ」から（要旨）

玉川大学

複数年ボランティア／開始学年早めに
ボランティアの単位化



子どもたちはお兄さん・お姉さんに教えてもらいたい（放課後学習）

法政大学

やりがいが出てくれば、無償でも続けられる
学生さんへのフォローが大切
子どもたちとかかわりたい！ 大学生

和光大学

学生が入った算数教室で成果があった
カリキュラムと連携（VCが担当）
学生と学校のニーズのマッチングの難しさ

町田市生涯学習インストラクターの会

かしのき山・薬師池・成瀬尾根一ガイドも行っている
サマースクールの各学校の日数が少ない
サマースクールは5月頃からお願いできる

町田市シルバー人材センター

時間枠・予算枠 制限があるので活用が難しい
話し方・態度が子どもたちにより影響
学習支援をやりたい方は多い！

町田市体育協会

親の都合での習い事選択 近場で開いてくれば
部活動 子どもの少なくなったところはチームが学校ごとでは組めない 地域で部活を支える
人材を活用し切れていないのがもったいない

町田市町内会・自治会連合会

避難所開設で学校と連携
町内会・自治会に協力が必要なきにはいつでも声をかけてください
町内の方にVCを知ってほしい

町田市農業協同組合

田植え・バケツ稲の指導 1～2コマ（2回/年）
農業のお話 ゲストティーチャー 経済課で受付（農家の紹介、町田の農業の現状等）
町田産の野菜を使って調理実習のお手伝いも可

町田商工会議所

職場体験、工場見学、商店街見学、もの作り、ロボット展示、検定試験、地域経済の発展
小学校もキャリア教育でお願いできる（紹介してもらえる）
商工会議所の団体（仕事）内容 町田に11,000店くらいある

町田市レクリエーション連盟

町田レクリエーション連盟 どんどん活用してください
中学校でもレクの時間を確保できるよう働きかけてみます
オリパラ（ポッチャ）縦の関係づくりに役立つ！

町田ボランティアセンター

オリパラ関係 パラバド、車椅子サッカー、ブラインドサッカー
依頼したいことはあるが、学校との時間の兼ね合い！
早めの相談！ まずは相談！

